

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部 看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎科目	主体的学修の基礎・導入	基礎ゼミ1	「基礎ゼミ1」は、新入生が大学教育に円滑に適応し、学習を進めていけるように図ることを目標としている。授業は、講師以上の教員が担当し、少人数ゼミ制形式で行うが、共通のテキストを使用し授業内容の統一を図る。教員や受講生がディスカッションを重ねながら、高校までの授業や学習とはどのように違うのか、能動的、主体的に学ぶにはどのようにすればいいのかなどについて理解し、今後4年間の教育に向かう意欲を涵養する。同時に、作文教育を取り入れてレポートや論文を書くための基本的な日本語リテラシー向上をはかる。また、前期末に実施する「地域のちら見実習」(福祉施設等を訪問する早期体験学習)も「基礎ゼミ1」の授業に組み込んでいる。	
		基礎ゼミ2	「基礎ゼミ1」と同じく、講師以上の複数の教員が担当し、少人数制ゼミ形式で授業を行う。授業では、学生一人一人が興味を持つことをテーマに設定し、ゼミでの発表と討議によって考察を深め、最後にプレゼンテーションとレポートを提出するが、そのことで主体的に学習するスキルを会得することが目標となる。教員は、学生がテーマ設定から最終発表までの各段階で論理的、科学的な思考を体得できるようにそれぞれの専門的視点から助言し、学生間の討議を活性化させる。	
		クリティカルシンキング	「クリティカルシンキング」では、「基礎ゼミ1」と「基礎ゼミ2」で培った主体的に学習する能力をさらに発展させ、将来の臨床現場で直面するであろうさまざまな課題を科学的にまた論理的・構造的に解決するための実践的・批判的な思考力やスキルを学ぶことが目標である。また、一通りクリティカルシンキングの理論枠組みを学習した後に、グループごとに課題を設定し、それを(少人数能動学習)を通して解決していくという授業形式を採用するので、学生の問題解決能力・チームマネジメント能力やプレゼンテーション能力を高めることが期待できる。	
	コミュニケーション能力の基礎	基礎英語コミュニケーション	英語習得の3つの技能である「読む」「書く」「聴く」の基礎的な能力の習得を目指す内容とする。専門的な用語・表現ではなく、日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。「読む」力の養成として、基本的な英語で書かれたテキストを読み、一定の時間内に読み取れるようにする。「書く」力として、意思を伝えることを第一とした文章作成能力を高める。さらに、「聴く」力は、ポイントを逃さない聴解力を高められるような内容とする。	
		中級英語コミュニケーション	本科目では「基礎英語コミュニケーション」で習得した「読む」「書く」「聴く」の3つの技能をさらに発展させることを目的とする。本科目ではよりハイレベルな教材を使用し、英語力の修得を目指す。技能習得のトレーニング方法としては基本的に「基礎英語コミュニケーション」の方法を踏襲するが、「読む」「書く」「聴く」のそれぞれの技能については、より高いレベルのスキルアップを目指す内容とする。	
		上級英語コミュニケーション1	日常生活及び看護の現場における英語コミュニケーションの基礎的な力を習得するために、看護現場での日常生活場面を想定し「聴く」と「話す」を中心に実践的に学んでいく。トレーニング方法として音読トレーニング方法の「シャドウイング」を用いて、日常の英会話だけでなく、患者と看護師の日常的な対話場面を想定した内容に耳を傾ける。対話内容理解の確認後、トレーニングペアとの対話練習を繰り返し、暗唱して対話ができるところまでレベルを高める。次の段階で、看護現場でよく用いられる語彙を練習し、看護現場の場面を想定して対話を行えるレベルまでコミュニケーション能力を高める。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	上級英語 コミュニケーション2	本科目では「上級英語コミュニケーション1」の内容を発展させ、日常生活及び看護の現場における英語コミュニケーション力を習得するために、看護現場における日常生活の場面に加え、看護師同士、看護師と医師のやりとりを想定し「聴く」と「話す」を中心に実践的に学んでいく。「上級英語コミュニケーション1」で用いた「シャドウイング」ペアでの対話練習等を発展的に取り入れ、発話力をさらに高め、将来的に看護現場で使える英語コミュニケーション力の育成に努める。	
	基礎中国語 コミュニケーション	本科目は、初級中国語(マンダリン)の入門科目であり、初めて中国語を学ぶ学生を対象としている。講義は、聴く、話す、読む、書くといった基礎的技能の習得に重点を置く。約300の繁体字を学ぶ。科目を修了する頃には、単語や語句を組み合わせた約500種類の表現で「読み」「書き」できるようになり、中国語の基本的な文法構造を使うことができるようになる。	
	中級中国語 コミュニケーション	本科目は、初級中国語(マンダリン)の入門中級講座である。「基礎中国語コミュニケーション」と同じく、講義は、聴く、話す、読む、書くといった基礎的技能の習得に重点を置く。「基礎中国語コミュニケーション」に続いて、さらに約300の繁体字を学ぶ。科目を修了する頃には、単語や語句を組み合わせた約1,000種類の表現で「読み」「書き」できるようになり、中国語の基本的な文法構造を使うことができるようになる。	
	医学・看護 英語リーディング	本科目においては、通常の教室での授業の中で、学生にとってのより効率的な学習のために、専用のインターネット上の教材を使用し、医学・看護英語の読解について学ぶ。医学・看護英語の読解力は、国際化する看護・医療業界では必須の能力であり、医療職として必ず身につけなければいけない知識である。受講者は、インターネットを利用し、外部サーバーにアクセスし、専用に作成された医学・看護英語の教材を利用し、本科目を受講する。インターネット上での設問への回答は、得点や正誤率などの成績とともに、統計データとして学生と担当教員に提供される。インターネットにアクセスした学習だけでなく、担当教員による説明や講義も授業中に実施される。予習復習を、自宅など教室外のインターネットがつながる場所で行うことも可能であり、反復学習により、より一層高い学習効果が期待できる。	
	医学・看護英語語彙	本科目は、「医学・看護英語リーディング」と同様に、学生にとってのより効率的な学習のために、インターネット上の専用教材を利用した授業を実施し、医学・看護英語の語彙について集中的に学ぶ。医学・看護英語は、普通の英語とかけ離れた難しい単語が多い点、また一つは、日本語の医学及び看護用語も、漢語を語源とする一般になじみの薄い語彙が多いことから、画像や音声(イヤフォンにより医学・看護英語の発音を聞くことができる)を多用した教育が効果的である。授業の実施概要は、「医学・看護英語リーディング」と同様である。インターネットにアクセスした学習だけでなく、担当教員による説明や講義も授業中に実施される。予習復習を、自宅など教室外の、インターネットがつながる場所で行うことも可能であり、反復学習により、より一層高い学習効果が期待できる。	
	スポーツと コミュニケーション	健康増進やレクリエーションのためだけでなく、スポーツはさまざまな効用を持っている。とくに将来、医療に携わる学生たちにとって人間の身体機能に気づく機会の一つになると考えられる。また、競技スポーツを始め集団で行われる種目も多く、スポーツを通して他のメンバーとコミュニケーションしながらチームワークを形成する能力を養うことも大切な学習目標である。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	コミュニケーション能力の基礎	<p>情報リテラシー</p> <p>学習、研究、生活、医療のあらゆる分野にIT化が浸透し、その進歩は著しい。授業では、新入生は、PCやタブレット端末の使用法や基本的なソフトあるいは学内LANの使用法について学ぶが、それだけでなく、インターネットとはどのような社会的空間なのか、どのようなメリットがある反面ではどのような問題を孕んでいるのか、そして、われわれは情報社会とどのように接すればよいのかといった、情報倫理も情報リテラシーの一部として学んでいく。</p>	
	暮らしの中の統計処理	<p>医療では患者のバイタルデータをはじめ多くのデータを統計処理する必要がある。授業ではその第一歩として、数理統計学の基礎理論を学習するだけでなく、実際に、受講生相互間で簡単な質問紙調査等を実施してデータを作成し、統計処理ソフトを使用して分析することを試みる。それにより、既存の統計処理された図表を読みこなすだけでなく、自らも臨床や研究においてさまざまな解析手法を使いこなせるようになることを目指している。</p>	
	人間と日常生活の理解	<p>哲学と倫理</p> <p>哲学は、諸学の基礎となる考え方について学ぶ学問であると同時に、人間存在についての最も根本的な問い—人間とは何かについて考え続けてきた学問である。倫理学は、人と人との「間」に在ることを本質とする人間にとって、善とはどういう事態なのか、人はどう生きべきかを問う学問である。人を対象とする看護師を目指す者にとって、哲学や倫理学を通して人間理解を深めておくことはきわめて重要である。また医療倫理やケア論などの基礎的な素養としても学んでおく必要がある。</p>	
	人間と日常生活の理解	<p>死生学</p> <p>医療では人の死と向き合うことが日常的である。その一方で、現代社会では身近なところで人の死に直面する機会は少なくなっている。それだけに看護師を目指す者にとって臨床現場に臨む前に自分の死生観を築いておくことが必要である。そのため、「死生学」は、実習を終了し、卒業を控えた4年生に配置されている。「死生学」では、人にとって死とは何かという問いを始め、死に臨む人の心理、医療施設における死、医療者は患者の死によってどのようなストレスを受けるのか、遺族の悲嘆をどのように癒やすのか、など人の死について多様な視点から学習していく。</p>	
	人間と日常生活の理解	<p>芸術と感性</p> <p>(概要)豊かな人間性を育てるために芸術に触れ、感性を磨く。近代人の最大の葛藤の一つに知性と身体性の分断を挙げることが出来るが、古来より人間の特性は知情意で表現され、知と意をつなぐものとして情が位置づけられている。ここでは、人間をホリスティックに捉えてバランスを取り戻す要素としての「芸術と感性」を取り上げる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(42 石塚小久良/5回) 水彩画などを通して、それぞれの色がもつ美しさの質や意味合い、人間への影響を感じる。また、豊かな色彩の世界に触れる中で頭と体の間の偏りを意識し、バランスを取ることを学ぶ。</p> <p>(43 細井信宏/5回) 粘土という自分の掌の暖かさを注ぎ込みながら思いを直接形に出来る素材を使い、閉じた単純な形から動きが生まれ、周囲との関係を築いて行くフォルムの変容を通して、フォルムの持つ美しさを体験するとともに自分自身の内面のプロセスに気づくとともに、自然界におけるメタモルフォーゼを体験する。</p> <p>(44 鈴木智子/5回) オイリュトミー(美しいリズム)という舞踏・身体芸術を通して、動きの持つ美しさと自分自身の体を再発見する。動きの中で人と人との間に流れる関係性を体感し、グループとして動く中でより高い社会性を体験する。</p>	オムニバス
	人間と日常生活の理解	<p>死生学</p> <p>医療では人の死と向き合うことが日常的である。その一方で、現代社会では身近なところで人の死に直面する機会は少なくなっている。それだけに看護師を目指す者にとって臨床現場に臨む前に自分の死生観を築いておくことが必要である。そのため、「死生学」は、実習を終了し、卒業を控えた4年生に配置されている。「死生学」では、人にとって死とは何かという問いを始め、死に臨む人の心理、医療施設における死、医療者は患者の死によってどのようなストレスを受けるのか、遺族の悲嘆をどのように癒やすのか、など人の死について多様な視点から学習していく。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間と日常生活の理解	人間関係の心理学	患者との関係やスタッフ間関係など医療現場は多様で複雑な人間関係から成り立っている。「人間関係の心理学」では、家族や友人など身近な人間関係において生じる心の動きや感情を素材にしながら、それを〈対人認知〉、〈社会的態度〉、〈帰属〉、〈認知的不協和〉など社会心理学の基本概念や枠組みを応用すればどのように分析可能となるのか、さらに心理学を医療に適用すれば対人理解や心の交流をどのように深めることができるのかについて学習する。	
	生涯学習論	「生涯学習論」は、人生における学びが就学期間に限られるものではなく生涯にわたり続いていくものであるという考え方に基づいている。とりわけ看護師は、医療の進歩に後れないため、あるいはキャリア・アップのために卒業後も自己研鑽を続けていかなければならない。授業では、主として教育学の理論と枠組みに依拠しながら、自己啓発や主体的学習がどのようにすれば可能となるのかという学習態度の形成とともに、生涯学習をバックアップするさまざまな研修制度など社会的支援の活用についても学んでいく。	
	日常生活の科学	日々の暮らし、衣食住の中にもさまざまな物理学的現象や化学的現象は潜んでいる。毎回の授業では、そのような身近な現象をトピックとして取り上げ、物理学的あるいは化学的、時には生化学的知識を用いて分析し説明できることを学ぶ。看護の専門科目を学習するためには自然科学的知識が必要となるが、「日常生活の科学」では専門課程に備えて、物理学や化学、生物学などの自然科学に馴染んでおくことが学習目標の一つでもある。	
基礎科目	法からみる医療	いわゆる「医事法学」が対象とする領域を扱うこととなる。4年生の配当科目であり受講生は、看護の専門科目を学修してすでに医療倫理や医療安全についての知識も有し、実習も終えて臨床の現場を経験している。したがって授業では、法学のより専門的な視点から、医療紛争がどのように発生して訴訟にまで至りまた医事裁判がどのように進行して和解や結審するのかということ学ぶ。それにより学生は、医療人として患者と自らの人権をどのように守ればよいのかを考えることを目標としている。	
	経済からみる医療	医療費の高騰など経済学的視点の必要性はますます高まっているにもかかわらず、医療を経済学的に分析する医療経済学の歴史は、わが国では浅い。授業では、経済学一般の知識を得るだけでなく、医療経済学の専門的視点から日本の医療制度が抱える財政的問題や、経営体としての病院の抱える問題、医療行為の費用対効果などについて学び、看護についても経済学的に考えていくようになることを目指している。そのため、すでに看護についての学修と思索が進んでいる4年生に配当している。	
	現代社会のしくみ	現代人は個人として自立しているとともに、家族、地域、企業、国家などさまざまな社会集団・組織や制度が織りなす複雑な全体社会のなかで生きている。授業では、近代化とその帰結として現代社会を捉えるという社会学的視点から、個人や集団や制度が今の姿になっているのは、それにはどのような必然性があるのか、今後それらはどのように変容するのかについて、身近な出来事を素材にしながらかえていく。医療についても、「患者」や「医療者」あるいは「病気」が医療社会学の概念を用いてどのように説明できるのかについて理解する。	
	家族とジェンダー	臨床の現場で看護師は患者本人だけでなく患者家族とも日々接している。しかし、家族ほど人類社会に普遍的でありながら多様で歴史の変容の著しい社会集団も少ないと言われる。とくに、現代家族の中の母親・女性に対する見方は、ジェンダーという概念が導入されたことで大きく変化してきた。授業では、女性の権利が社会の中でどのように主張され認められるようになってきたのかという視点から、家族や女性の現状とこれからについて考えていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	社会生活の理解	<p>京都の文化と暮らし</p> <p>長いあいだ都であった京都には優れた文化や伝統が息づいている。授業では、京料理や祭、数多くの寺社、京町家などいわゆる京都らしいものを取り上げ、その歴史や由緒、後世に伝えていくための取り組みなどを知ることで、古いものを大切にしながら新たな価値を生み出してきた京都人の心について学んでいく。授業で学んだことは、将来この京都の病院に就職して地域に暮らす患者さんを理解しようとする際に基礎知識としても役立つことであろう。</p>	
	異文化コミュニケーション論	<p>異文化コミュニケーション論</p> <p>グローバル化が進み、日常的に海外の文化や人に接することが多くなった。「異文化コミュニケーション論」では、文化的背景の異なる人たちと出会う時にどのようなことが起こるのか、そして、異文化の人たちとはどのようにコミュニケーションを取り、どのように理解し合えばよいのかを学習する。それはまた、同じ社会のなかでも自分とは異なる背景を持つ人々が存在することに気づき、そのような人たちを尊重し、理解しようとする態度や能力を身につけることにも繋がるであろう。</p>	
専門基礎科目	健康の成り立ち	<p>健康論</p> <p>「健康」は不思議な存在である。なぜなら、健康であるときにはそれを意識することはほとんどなく、心身に何らかの異常や不都合を感じたときに以前の状態を「健康だった」と認識することが多いからである。本講義では、そのような健康の特質をふまえたうえで、自身や家族といった身近な存在に起きた健康問題、さらには著名人の健康に関する記述などを教材に、個人やグループで課題に取り組み、健康とは何かについて探究する。また、本講義での学習を通して、実践者に必要な明確な答えのないものを追求(追究)する姿勢の涵養をめざす。</p>	
	生命の科学	<p>生命の科学</p> <p>生命科学の概念と意義、重要性、その発展の歴史と背景、「生命とは何か」という人の生命に関する基本的な問いについて、生命の遺伝子・細胞・組織・個体の各断面の科学的側面について理解する。また最近のトピックスを取り上げ、生命と科学の諸問題について、生物学的、医学的、社会的、倫理的諸側面について学ぶとともに、理解し考えを深める機会とする。</p>	
	微生物学	<p>微生物学</p> <p>微生物には人の生活環境において有益なものが多いが、人に感染症を引き起こすものも少なくない。感染症をおこすものを特に病原性微生物と呼んでいるが、これらの個々の特徴と性質をよく知り、感染の経路や感染防止の方法についてよく理解することが必要である。本講義では、これら微生物について周知しておくべき基礎知識を学ぶ。手洗いなど実験研究的な演習を行う。</p>	
	形態機能学 I (解剖生理学)	<p>形態機能学 I (解剖生理学)</p> <p>人の健康と生活に深く関わる学問である看護学においては、その生命・身体・疾患・生活などの側面に関与していく上で、人体の構造と機能についての理解が前提であり、これら人体の正常な構造と機能への理解の基盤の上に、病気の成り立ちへの理解や、診断・治療・看護への応用が成立するものである。ここでは、解剖学によって人体の形態と構造(各器官の位置関係や形状、内部構造)を学び、生理学(各器官の機能や人体における役割)によってその役割と機能を学ぶ。具体的には、自律神経系、呼吸器系、循環器系について学習する。形態機能学 I では、その概要と消化器系、循環器系、泌尿・内分泌系、支持・運動器系、神経系、皮膚感覚器系、生体防御の関連臓器、生殖器系、人体の発生と老化について学ぶ。また身体の機能が生活の中でどのように使われているのかを演習を交えて学習する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	健康の成り立ち	形態機能学Ⅱ (解剖生理学)	人の健康と生活に深く関わる学問である看護学においては、その生命・身体・疾患・生活などの側面に関与していく上で、人体の構造と機能についての理解が前提であり、これら人体の正常な構造と機能への理解の基盤の上に、病気の成り立ちへの理解や、診断・治療・看護への応用が成立するものである。ここでは、解剖学によって人体の形態と構造(各器官の位置関係や形状、内部構造)を学び、生理学(各器官の機能や人体における役割)によってその役割と機能を学ぶ。形態機能学Ⅱでは、生体システム、細胞の機能、血液、体液、呼吸、消化と吸収、栄養と代謝、体温調節、腎体液調節、生殖、運動骨格系、神経系、感覚器機能と機能調節などに関する基本的な知識を学習する。身体の各機能の連動が命を支えている仕組みを理解する。	
		形態機能学Ⅲ (生化学)	人の健康と生活に深く関わる学問である看護学においては、その生命・身体・疾患・生活などの側面に関与していく上で、人体の構成素材への理解が大切となる。生化学は生物を化学的に研究し解明する学問であるが、これら人体での生化学的作用への理解の基盤の上に、病気の成り立ちへの理解や、診断・治療・看護への応用が成立するものである。ここでは、グループワークを交えながら生体がどのような化合物からなり、化合物がどのように生成・破壊されて、生体の恒常性が保たれるかについて学ぶ。	
		栄養学	人間の生命の維持、健康の保持・増進、成長発達、疾病予防、また疾病からの回復において「栄養」が果たす役割は非常に大きい。ここでは栄養学についての基本的知識を網羅すると共に、看護学と関連する諸側面について理解を深める。具体的には、成長発達に応じた栄養所要量、各栄養素の特徴と役割、消化・排泄・代謝機能との関係、サプリメント・治療食など治療に関係する栄養摂取について理解すると共に、健康人や疾患を持つ人に対する栄養教育の意義と方法についてシミュレーションしながら学ぶ。	
	健康障害と治療	病理学概論	多彩多様な諸臓器の病変を、概念的あるいは具体的に記述する病理学から、総論を中心に多く遭遇する疾患を主に、病院、発生の仕方、経過、治療、転機や予後などの関係付けをおこなう。また看護技術の科学的基礎についても理解を図りながら、さまざまな疾病や障がいに対する見方をいかに自ら養うか、そのスタート台に立つ意味を持つ。具体的には、医学医療の中の病理学、代謝障害、循環障害、奇形、進行性病変、炎症、腫瘍、病因論など。	
		疾病と治療Ⅰ	(概要)看護学で必要な諸疾患についての発症因子・発症機序・病態生理・症状(一部フィジコを用いた演習)・検査・診断・治療と処方・予後・疾病がもたらす機能障害などについて、各系統別に学ぶ。治療法については救急救命・手術療法・薬物療法・放射線療法・精神療法とその期待される結果を含む。看護学で必要な諸疾患についての発症因子・発症機序・病態整理・症状・検査・診断・治療と処方などについて、各系統別に学ぶ。疾病と治療Ⅰでは、概論とともに運動系、呼吸器系、循環器系について理解する。 (オムニバス方式/2コマ×全15回) (55 三島克之/2コマ×7回) 発達段階の特徴、健康障害の要因、発達段階に特徴的な要因、運動器系 (57 林秀明/2コマ×4回) 呼吸器系 (56 坂井陽祐/2コマ×4回) 循環器系	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	健康障害と治療	<p>(概要)看護学に必要な諸疾患についての発症因子・発症機序・病態生理・症状(一部フィジコを用いた演習)・検査・診断・治療と処方・予後・疾病がもたらす機能障害などについて、各系統別に学ぶ。治療法については救急救命・手術療法・薬物療法・放射線療法・精神療法とその期待される結果を含む。疾病と治療Ⅱでは、消化器系、肝臓・腎臓系、血液系、内分泌・代謝系について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/2コマ×全15回)</p> <p>(58 真弓健治/2コマ×4回) 消化器系 (56 坂井陽祐/2コマ×4回) 肝臓・腎臓系 (57 林秀明/2コマ×3回) 血液系 (59 上野宏行/2コマ×4回) 内分泌・代謝系</p>	オムニバス
	健康障害と治療	<p>(概要)看護学に必要な諸疾患についての発症因子・発症機序・病態生理・症状(一部フィジコを用いた演習)・検査・診断・治療と処方・予後・疾病がもたらす機能障害などについて、各系統別に学ぶ。治療法については救急救命・手術療法・薬物療法・放射線療法・精神療法とその期待される結果を含む。疾病と治療Ⅲでは、脳神経系、精神保健、感覚器系(眼科・皮膚科・耳鼻科)、女性生殖器、小児疾患系について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/2コマ×全15回)</p> <p>(61 高橋潤/2コマ×3回) 脳神経系 (62 広川慶裕/2コマ×3回) 精神保健 (63 関山有紀/2コマ×3回) 感覚器系 (64 千草義継/2コマ×3回) 女性生殖器 (60 周藤文明/2コマ×3回) 小児疾患系</p>	オムニバス
	薬理学	<p>看護学に必要な基本的な薬物に関する知識を学ぶ。分子・細胞・臓器・個体レベルでの薬物の作用機序と人体・疾患・症状への影響(作用・副作用)・相互作用について理解する。加えて与薬方法と注意項目、観察ポイント、副作用とその対策、管理上の留意点など、シミュレーションを入れながら安全で効果的な看護実践の為の基本的知識を確認する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	健康 障害 と 治療	<p>(概要)代替療法は現代西洋医学以外のすべての療法を指し、看護の分野ではマッサージやアロマテラピー、リフレクソロジーなどが代表的である。この言葉は欧米から発信されたものであるが、日本人にも湿布や漢方薬をはじめとして古くから生活に馴染んできた療法である。ここでは代替療法の様々な手法を紹介し、看護や看護師の手に持つ「癒しの力」の可能性について共に考える機会としたい。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 豊田久美子／2回) 香りテラピー・温熱療法・リフレクソロジーなど代表的な代替療法の「癒しの技法」についてその理論的背景とともに紹介し、看護の可能性を広げる代替療法の力について考える機会とする。</p> <p>(68 西川洋子／2回) 東洋医学の考え方について紹介しその概観を理解するとともに、鍼灸・指圧の手順と効果について体験を通して学ぶ。</p> <p>(25 福田里砂／2回) 徒手リンパドレナージの理論とその実際について学ぶ。</p> <p>(6 伊藤良子／9回) ハーブの薬効、アロマテラピー、シュタイナー(アントロポゾフィー)看護に基づくリズムカルアインライプング(オイル軽擦法)や湿布療法など、欧米で普及しているいくつかの代替補完療法を紹介し実体験を通してその力についての学びを深める。リズムカルアインライプングについては、演習を通してその基本的な手技を学ぶ。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 基 礎 科 目	臨 床 の 人 間 学	生涯発達論	人は生まれ、成長・発達しておとな＝成人になり、年齢を重ねるにつれて心身の諸機能が衰えて生涯を閉じる。生涯発達とは、成長発達したのちに衰え死に至るすべての過程に人の発達は存在するという考え方である。このように、人の一生涯を見通して発達を考えると、生涯を通して学び続ける人間観が見えてくるが、それは専門職として学び続ける必要がある看護職の基礎を構成するものでもある。本講義を通して、生涯発達に関わる基本概念を知識として学ぶとともに、自らの生涯学習の基礎を形成する。特に成人期の特徴に基づいた役割における重要性や向老期までの様々な課題についてグループ討議や事例検討を行う。	
		医療・看護倫理	(概要)医療倫理は、インフォームド・コンセントに象徴されるように患者の権利が認められるなかで医療界に根付いてきたが、その一方で、生命科学や医療技術の進歩とともに絶えず新しい課題と直面しなければならない領域でもある。授業では、医療倫理の理念を踏まえながら、現在に至るまでの歴史的背景と変遷過程を学ぶとともに、臨床現場における「診療記録の開示」や「がん告知」などの現状についてもディスカッションを行い考察していく。 (オムニバス方式／全15回) (2 平英美／5回) 主に医療と倫理に関する話題と問題に焦点を当てる。 (7 山岸千恵／10回) 主に看護と倫理に関する話題と問題に焦点を当て、考えを深める。	オムニバス
		臨床人間学	床に臨むと書く臨床は、主に医療の現場でなんらかの病をもった人々に関わることであるが、最近では、さまざまな実践領域で状況に介入する活動を行うことを意味する。本講義では、臨床をこのように広くとらえ、実践現場を重視する立場から人間に関する知見を学び、整理して、病む人間の見方やとらえ方の基礎を身につけることをめざす。また、合わせてナイチンゲールの健康の定義にある人間の「もてる力」について検討し、病に苦しむ人が必ずしも不幸であったり、単なる弱者であったりするわけではないという人間観を涵養する。	
		臨床心理学	健康な、または身体的・精神的な病を得て、心理的な問題を抱える人をどのように援助できるのか？という問いに対する、臨床心理学的な知識と解決方略は、看護職者にとっても非常に重要で価値の高いものである。ここでは、臨床心理学の概観と歴史を紹介するとともに、核となる概念、心理診断と心理療法、検査方法と研究方法などについて幅広く学ぶ。また個人や集団の適応上の問題を、心理学的知識や心理社会的アセスメント、カウンセリングの基本的な方法について学び、示唆、助言などを通して解決に導くためのプロセスを紹介し、治療過程の全体像の把握を助ける。	
		医療コミュニケーション論	(概要)バーバル、ノンバーバルを含め、医療現場では、医療者-患者間、スタッフ間などに多彩なコミュニケーションの様態が見られる。とりわけ、看護では、コミュニケーション・スキルの習熟は、看護師が患者との信頼関係を構築して療養生活の支援者となる上で重要である。授業では、「社会言語学的アプローチ」、「RIASを代表とする機能主義的アプローチ」「ナラティブ分析」「会話分析」など、医療コミュニケーションを探求するための理論を学習しながら、他のコミュニケーションと異なる医療コミュニケーションの特徴について理解することを目標としている。 (オムニバス方式／全15回) (2 平英美／13回) 「社会言語学的アプローチ」、「RIASを代表とする機能主義的アプローチ」「ナラティブ分析」「会話分析」など、医療コミュニケーションを探求するための理論を学習する。 (1 豊田久美子／2回) 看護の場におけるコミュニケーションについて事例を用いて理解を深める。	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	医療 コミュニケーション論 演習	「医療コミュニケーション論」で学んだ理論と知識に基づいて実際のコミュニケーションを分析し、医療コミュニケーション、とりわけ看護師-患者間のコミュニケーションのあり方についての見識を深めていくことが目標である。授業では、少人数のグループごとに模擬的な医療コミュニケーション・トレーニングを実施してその映像データをRIAS等で分析する作業とともに、模擬患者(市民ボランティア)を用いたより実践的なトレーニングを導入しコミュニケーション・スキルを学んでいく。	
	看護政策論	近年、保健・医療・福祉を統合したヘルスケアシステムが整備され、看護職能の活動の対象や場が拡大してきている。このような社会情勢のなかで質の高い看護活動を提供するために、活動しやすい環境作りが求められ、その具体的方策としての看護政策が重要であることを理解する。看護政策の歴史的発展過程と看護職が抱える課題を理解し、課題解決について思考する能力を養う。我が国における看護制度・看護政策・看護教育制度・諸外国の看護政策について学習し、看護職を取り巻く環境について理解する。	
	公衆衛生学	公衆衛生とは、人々の身体的・精神的・社会的な健康を保持・増進することを目的とした総合科学で、人間の様々な行動や生活様式と深いかかわりを持つ。公衆衛生では、その歴史と新しい健康施策が人々の暮らしにおける健康維持の役割を学び、新しい健康概念を考察する。公衆衛生の技術では健康指標などを学ぶことにより、地域の特性をアセスメントする基本的能力を養う。医療施策の動向および地域保健、産業・学校保健に関する特性とその根拠を学び、看護支援について考察する。	
	保健統計学	疫学・統計学の概念と意義、方法および人口統計・保健統計について学ぶ。具体的には日本や諸外国の人口・死亡・疾病など、集団としての健康や生活の質を疫学的・統計学的に捉え分析する。また看護職者としてどのようにそれらのデータを分析・利用し、未来に向けて活用できるかを考える。さらに保健医療分野における代表的な分析技法について演習を含め、事例を用いて解説し、地域看護や国際看護における健康課題を把握し展望する。	
	関係法規	看護の対象となる人を支援する法律、また看護職者の資格や業務を定めた法律である保健師助産師看護師法と関連職種(法、医療に関連する法(医療法、薬事法、老人保健法等)、福祉に関連する法(介護保険法、老人福祉法、母子保健法等))について解説する。また保健・医療・福祉の連携における法の必要性について理解し、看護師の果たす責務とは何かを考える。	
	社会福祉	人間の健康に様々な立場からかかわる看護職には、対象となる人の安定した生活への配慮と全人的な支援を行うために社会保障・社会福祉に関する知識・素養が求められる。本科目では、まず、社会福祉の歴史的変遷を時代背景に照らして理解する。次に、現代の社会福祉・社会保障に関する法律、制度の基本理念及び施策体系を理解する。そして、現代の生活問題と健康との関係についても学び、社会福祉・社会保障を踏まえたよりよい看護活動を展開する能力を養う。	
	社会資源 コーディネート論	近年の動向として多職種との連携を含めた社会資源コーディネーターが看護職には求められている。本科目では、まず、社会資源の種類と社会資源の調整方法について、社会福祉援助の視点とケアマネジメント、ソーシャルワークの手法を用いて概説する。次に、病院完結型の医療ではなく、生活を支える様々な人的、物的社会資源を有効に活用し、退院後の生活を再構成する退院支援が退院後の療養生活に有効であること、また、既に在宅療養生活を送る生活者に対しても、療養生活の質が向上することについて理解し、社会資源コーディネーターを看護活動として展開する能力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 基 盤 看 護 領 域 基 礎 看 護 学	看護学原論	看護学のパラダイムである人間、健康、環境の概念と相互の関連性を概観し、看護学とは・看護とはについて考究する。また、看護師に求められる人権の尊重や権利擁護、看護専門職としての社会的責任と役割を遂行するための看護の基礎を学ぶ。	
	臨床実践と看護理論	3年次での様々な臨地実習体験を通して、看護実践科学としての看護学の発展や看護理論を臨床実践に活用できる基本的能力を培う。看護に必要な根拠を探索でき、看護を展開する際に理論や概念を活用でき、看護実践と看護研究との連動を理解できるような基礎能力を養う。	
	生活行動援助論Ⅰ	看護の対象となる人々の生活行動から日常生活援助における看護の役割について学ぶ。看護技術の根幹をなす安全性・安楽性・自立(自律性)について理解を深めるとともに、人間の基本的ニーズとその充足を支える援助の視点から、その知識に裏付けられた基本技術の修得をする。	
	生活行動援助論演習Ⅰ	本講義では「生活行動援助論Ⅰ」の内容を前提に、看護学分野における人々の生活行動を支援する、基礎的援助技術を学内で演習する。演習により認知領域、精神運動領域と学生自らの模擬患者体験をとおして情意領域を深め、統合的な援助技術を学ぶ。また、「生活行動援助論実習Ⅰ」とリンクし、臨地での日常生活援助を体験し、基本技術の原理原則を理解し深めていく。	
	生活行動援助論Ⅱ	何らかの治療を必要とする人への生活行動援助論技術の基礎について学ぶ。診療にともなう看護技術について治療を受ける療養者の心理を配慮し、安楽に実施できる方法を理解する。また、医療安全技術として知識に裏付けられた基本技術を修得する。	
	生活行動援助論演習Ⅱ	本講義では「生活行動援助論Ⅱ」の内容を前提に何らかの治療をしながら生活している患者さんの心理を踏まえながら、診療介助技術を安全に安楽に行えるように学内で演習する。また、基本技術やフィジカルアセスメントを合わせて統合的な援助技術を学ぶ。	
	看護現象と看護診断	看護診断についての基礎的知識とその思考過程について学び、看護現象やクライアントの状態から看護診断に結び付ける過程について理解する。さらに看護診断の諸領域と、その診断概念の背景にある中範囲理論についての学びを通して、看護上の問題を様々な理論をもとに査定する方法について理解を深める。	
	看護過程論	看護の対象となる人の健康課題(問題)が解決するように、個別的で適切な看護を実践するために用いられる、ツールとしての「看護過程」について理解する。看護を計画的に実践していくための批判的思考や分析的思考、論理的思考を活用し、看護過程の査定、診断、計画、実施、評価の基本的展開法を修得する。	
	ヘルス・フィジカルアセスメント	ヘルスアセスメントの概要を理解し、基礎的な技術の修得をめざす。看護過程(問題解決過程)におけるヘルスアセスメント能力を深める。看護師が行うヘルスアセスメントの意義・目的・方法を理解し、主な症状・兆候から見たフィジカルアセスメントの方法、主な治療・処置を受けている患者の看護を学ぶ。また、臨地実習に向けての医療安全・事故防止についての患者アセスメントの視点を学ぶ。	
	ケアリングコミュニケーション	プロセスレコードやSPを用いた演習などから援助的関係形成の過程を理解し、看護の対象となる人々と援助的関係を形成できる、援助的コミュニケーションを修得し、展開できる。援助的関係におけるケアリングコミュニケーションについて学びを深めるとともに様々な分析手法やコミュニケーションスキルを活用することができる。	集中

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 基 盤 看 護 領 域 開 発 看 護 論	看護教育論	看護教育制度・内容とその歴史の変遷について概観し、看護基礎教育の意味(教育内容、教育制度、教育方法、継続教育、患者教育)について学ぶ。更に看護基礎教育の現状と看護専門職・看護実践能力・看護教育について考えを深める。各論では看護教育制度や看護基礎教育の課題などについて討議・検討し展望するとともに、看護教育における生命倫理教育の在り方にも触れる。	
	看護リフレクション	前期の実習での体験をもとに振り返り、看護実践課程において基礎となる能力の一つであるリフレクションの目的・意義について理解を深める。また対話や記録を用いて実際に看護実践をリフレクションし、その重要性を確認すると共に、自己や他者および看護に対する気づきにつなげる姿勢を養う。具体的には、リフレクションの定義リフレクションに必須のスキル、リフレクションの実施による学びなどを含む。	集中
	看護管理・経営論	(概要) チーム医療において看護師が果たす役割は何か。またチーム医療の速やかな実現につながるマネジメントとは？この問いの答えを模索する中で、チーム医療の体制・組織・機能・役割分担・権限移譲について学ぶとともに、その遂行のために必要な看護マネジメントの概念とマネジメントスキルについて理解する。更に費用対効果と看護の質の評価の必要性を視野におきつつ、よりよい看護サービスと看護者の意欲の維持・向上を両立するような仕組みやPDCAサイクルの効果について学習する。 (オムニバス方式／全15回) (5 井下照代／10回) チーム医療において看護師が果たす役割に必要な看護マネジメントの概念とマネジメントスキルについて学ぶ。また、チーム医療の体制・組織・役割分担・権限移譲について理解を深め、病院経営を中心に費用対効果と看護サービスや看護の質の向上について学ぶ。 (8 澤井信江／5回) 看護の現場における看護管理の実際について、実例を交えて分かり易く解説し、考えを深める機会とする。	オムニバス
	看護キャリア開発論	プロフェッショナルな看護師としての成長には適切なキャリア開発が重要である。またそのためには自己教育力を鍛え、生涯にわたって学習し成長してゆくことが必要となる。ここでは看護専門職者にとってのキャリアデザインの意味と価値性を考えるとともに、各自が自分に引き付けて考える機会とする。	
	医療安全	医療事故発生の背景とメカニズムを学び有害事象の予防方法とリスク・マネジメント～セーフティ・マネジメントについて考え、安全を脅かす因子の除去・管理について理解する。さらに安全確保のための組織の在り方や安全文化の形成、看護師とメディカルチームの重要性および各々の役割を確認し、その実際の方法について学ぶ。具体的には標準予防策、事故予防と発生後の分析評価「インシデントレポート」「ヒヤリハットレポート」の目的と必要性等を含む。	
	災害看護論	(概要) 災害と災害看護の対象者である被災者・被災集団の概念と定義、被災者のメンタルヘルスと疾病構造について学び、災害が避難生活や療養環境、その健康に与える影響について理解し、災害に対する看護の役割を学ぶ。また災害医療の原則や災害サイクルに応じた看護について理解する。さらに地域における日常的な健康危機管理の重要性とそこにおける看護師の役割について理解する。 (オムニバス方式／全15回) (13 武田未央／10回) 災害と災害看護の概念、被災者のメンタルヘルス構造、災害の健康への影響、看護師の役割を中心に学ぶ。 (66 小松智子／5回) 災害医療の原則や災害サイクルに応じた看護について理解する。地域における日常的な健康危機管理の重要性とそこにおける看護師の役割について理解する。	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基盤看護領域	災害看護技術演習	災害時の医療提供の目的に沿って、災害時の素早い対応のために地域や医療機関での防災計画の整備、被災者の心のケア、デブリーフィング、トリアージ、救急処置の原則など、災害看護に必要な技術について詳細に学び、理解する。被災地における協議の在り方、避難所の管理、災害ナースの支援活動などについても具体的な事例検討やシミュレーションを用いて演習し、理解を深める。	
		国際看護論	<p>(概要) 人々は多様な民族や国・文化の違いの中で生活している。情報が瞬時に行き交い、グローバル化が進む現代においては人的交流も活発になってきており、おのずと看護においても国際的な視点を備え、異文化を尊重し多様な対象理解が重要となってきている。これらを前提に多様な対象・異文化を尊重した国際看護の重要性とその概念を理解する。さらに国際的な視野のもとに看護実践するための基本的な理念について考え、国内・海外の多様な健康課題とその背景をとらえ、国際看護の概念を理解し、国際社会における看護の役割を考え、その実際を学ぶ。また日本の看護分野における国際協力のしくみと、民間・国際機関の活動と現状について学び国際支援の在り方を知る。そして国際的な視野を持ち看護活動を実践するための基本的な理念、民間・国際機関の活動と現状について学び国際支援の在り方について考えを深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(13 武田未央／13回)</p> <p>グローバル化が進む現代においては人的交流も活発になってきており、おのずと看護においても国際的な視点を備え、異文化を尊重し多様な対象理解が重要となってきている。これらを前提に国内・海外の多様な健康課題とその背景をとらえ、国際看護の概念を理解し、国際社会における看護の役割を考える。また日本の看護分野における国際協力のしくみと、民間・国際機関の活動と現状について学び国際支援の在り方を知る。そして国際的な視野を持ち看護活動を実践するための基本的な理念、プライマリーヘルスケア、看護の実際について学び、看護職の発展の方向性について考えを深める。</p> <p>(1 豊田久美子／2回)</p> <p>諸外国における看護の現状について、日本との違いと類似点を探索しながら学び、理解を深める。また日本と諸外国の医療、看護の国際比較と今後の展望についても共に考える。</p>	オムニバス
		看護技術強化演習	卒業前の4年次後期に基本的看護技術の修得を確実に強化できるように演習を行う。また、総合実習を終え、いろいろな看護場面を体験している。複数の患者を受け持つケースから、与薬の場面や患者の訴えなど具体的な場面を想定し、アセスメントから判断まで一連の流れから対象に合わせた援助を行うための基本的な判断ができることを目標に演習を行う。	集中
	地域在宅支援論	在宅支援論	地域看護における在宅看護の位置づけと特性を理解する。在宅で生活しながら療養する人々と家族を理解し、地域の中で保健医療福祉サービスを継続していくために求められるケアマネジメント、関係職種との連携、在宅医療システムのネットワーク機能を理解する。さらに、第1次予防・第2次予防・第3次予防の概念や在宅看護を支える具体的な社会資源とその活用についても学ぶ。その上で、地域で生活する様々な健康状態にある人たちの心身の健康保持増進、在宅医療を支えるための地域を単位としたケアシステムを理解し、生活の場での必要な援助の方法を展開していくための支援方法と看護の役割を学ぶ。また、在宅での終末期にある療養者の終末期看護を含む。	
		在宅支援論演習	在宅で生活しながら療養する人々と家族を支援するための具体的な看護援助の実際を学ぶ。在宅看護事例を通して、看護過程、退院支援、退院調整の継続看護の実践について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域在宅支援論	家族支援論	<p>(概要)家族という集団を一つの単位として支援する家族看護の概念を学ぶ。概念を学ぶことで、家族が家族機能を維持するためのセルフケア機能をもつシステムであることを理解する。セルフケア機能を高める援助として、家族の発達課題・ライフスタイルの維持・健康問題への対処能力といった諸方策について学ぶ。また、家族のライフサイクルに応じて直面する発達危機や健康問題に対する援助について事例を通して学ぶ。</p> <p>(オムニバス／全15回)</p> <p>(15 日吉(谷口)和子／13回)</p> <p>家族看護の概念と歴史、家族の概念とその機能、家族を理解・支援するための諸理論について概説し、家族のセルフケア能力を高めるための援助について理解する。各論においては、地域で暮らす健康支援を必要とする家族への支援の在り方について学びを深める。在宅介護をする家族、認知症患者を持つ家族、バーンアウト予防についての事例学習を行う。さらに看護者の役割、今後の課題と展望について共に考える。</p> <p>(6 伊藤良子／2回)</p> <p>家族看護に関する事例学習</p>	オムニバス
		公衆衛生看護学	<p>地域を基盤として展開する公衆衛生看護の特質を学ぶ。本講義は公衆衛生看護活動の学習のみならず臨床看護においても地域包括ケアの概念を学習することが必修であり、これらの学習を進めていく上で基本となる内容である。公衆衛生看護活動の歴史や具体的事例から公衆衛生看護の理念と目的を理解する。また、在宅で療養する人々への地域包括ケアの理念と目的を理解する。この目的にそって活動を展開していく上で基本となる考え方およびその方法や関連制度について理解する。そして、ヘルスケアシステムの中で機能する看護の役割について考える。</p>	
	老年看護学	高齢者支援論	<p>老年期にある人の健康状況、生活のありよう、医療・経済を取り巻く動向について概観し、地域や病院、介護保険施設などあらゆる場における高齢者を取り巻く状況や健康段階に応じた看護の機能と役割について学ぶ。その上で加齢に伴う健康問題を抱えた高齢者の健康・健康障害の特徴および生活への影響を理解し、適切な支援のための基礎的知識・技術・態度について学ぶ。また、高齢者と家族を一単位としてとらえることや、高齢者の人権や権利、尊厳についても理解を深める。</p>	
		高齢者支援論演習	<p>高齢者支援論の講義をもとに、さまざまな健康レベルにある高齢者の日常生活の事例をもとに、健康障害が及ぼす生活への影響や生活機能の観点からアセスメントし、それを最小限にするための具体的な援助方法について学ぶ。さらに、高齢者の顕在的・潜在的な能力が最大限に発揮できるようにするための援助方法についても学ぶ。</p>	
	母性看護学	母性看護学	<p>新しい家族の誕生である、子どもの誕生をめぐる時期にある女性と家族を理解し、支援する為にヘルスプロモーション、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、ジェンダーとセクシュアリティ、母子保健の変遷と動向など、多角的な視座からその概念と人々を捉え包括的な学びを得る。また女性・家族のライフサイクルと発達課題を概観し、その援助の方法を考える。その上で家族の誕生をめぐる時期にある女性と家族(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)の身体的・心理的・社会的・精神的特徴について学ぶ。</p>	
		母性看護学演習	<p>家族の誕生をめぐる時期にある女性と家族(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)の身体的・心理的・社会的・精神的特徴を踏まえた上でその看護ケアについて学びを深めると共に、周産期の健康逸脱とその看護について理解する。また周産期ケアのために必要な基礎的ケア技術と基礎的教育技術を学修し、周産期の看護過程についての理解を演習を通して深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	小児看護学	小児看護学	小児とその家族を支援するために、様々な側面からアプローチし、その全体的な理解を促す。具体的には小児保健の歴史と今後の動向、福祉政策、子どもの権利、子どもを取り巻く環境などについて展望するとともに、子どもの成長発達の特徴、発達課題、健康の保持増進、疾病予防の観点を含めて学ぶ。小児に特有の疾病や発達障がいについて学び、小児が疾病や障がいを持つことの意味や、そこでの家族の果たす役割の大きさ、看護理論についても理解を深める。		
		小児看護学演習	小児看護学で学んだ内容を基に、乳幼児期・児童期・学童期・思春期の健康課題、子どもの疾患と障がい、成長、発達段階、家族へのケア、学校、生活上の特性によって生まれる特徴的な基本的知識、アセスメント、フィジカルアセスメントなどの看護技術と看護過程について学ぶ。また小児とのコミュニケーション方法、遊びの援助、プレパレーションなど多彩で実際的な支援の方策について学ぶ。		
	急性期・周術期看護論	急性期・周術期看護論	急激な健康破綻をきたした患者の健康問題を全人的にとらえ、患者およびその家族を支援する具体的方法について学ぶ。また、急性期や周術期にある患者のアセスメントの視点について学習する。さらに、麻酔・手術による生体反応、合併症の発症機序とその予防方法について理解を深めるとともに、急性期および周術期に必要な理論についても学習する。		
		クリティカルケア論	クリティカルケアの対象とその特徴およびクリティカルケアの場における看護の役割について学ぶ。また、クリティカルケア看護に必要な基本的知識を修得し、三次救急の対象となる患者や侵襲の大きい手術を受けた患者など、生命危機状態にある患者に対する具体的な看護について学ぶ。さらに、患者の二次障害の予防、QOLの向上をめざした看護についても学ぶ。		
		急性期・周術期看護論演習	急性期・周術期看護論の講義をもとに、急激な健康破綻をきたした患者の事例を取り上げながら、看護過程を展開する。また、患者の全身状態をアセスメントし、生命維持のために必要な援助や早期リハビリテーションを取り入れた回復期に必要な援助方法について演習を通して学ぶ。		
	健康回復生活支援看護領域	生活行動回復看護論	健康回復生活支援概論	(概要)ヒトの健康と日常生活について深く理解し、健康の破綻と回復過程にある看護の対象者を支援する看護の専門的役割について学ぶ。変動する時代と社会の影響から、医療の高度化・専門分化に伴い、その要請に応じて質の高い看護を提供する過程で、必要としているニーズを判断し、人間尊重を基本とした、エビデンス(科学的根拠)に基づく看護ケアを実践するための、生活の予後診断と評価の視点について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (5 紙屋克子/7回) 疾病あるいはその後遺症によって日常生活に支援を必要とする対象者が、生活行動を獲得し、自立するまでの回復過程を理解する。また、人間の尊厳を擁護するヒューマンケアを通して、専門職としての役割・責任などについて学ぶ。 (16 盛永美保/5回) 健康行動回復過程にある対象の社会復帰を促進するための、対象および家族への支援方法、障がいの受容過程、社会支援体制などについて学ぶ。 (25 福田里砂/3回) 健康行動回復過程の促進を支援する援助について、エビデンス(科学的根拠)に基づく看護ケアの諸方策、回復期のインシデントなどについて、事例を通して理解を深める。	集中 ・ オムニバス
			生活行動回復看護論	疾病あるいはその後遺症によって日常生活に支援を必要とする対象者が、生活行動を獲得し、自立するまでの回復過程を理解する。また、人間の尊厳を擁護するヒューマンケアを通して、専門職としての役割・責任などについて学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	健康回復生活支援看護領域	生活行動回復看護論演習	心身に障がいや有し、日常生活に支援を必要とする看護の対象者についてのより深い理解を促し、生活行動の回復と自立を支援する専門職としての高度な看護の実践能力を獲得するための方策について、関連する内外の文献講読と技術演習を通して検討する。	
		セルフケア支援論	<p>(概要)成人期にある慢性疾患をもって生きる患者と家族の特性や健康上の諸問題を理論や概念を用いながら総合的に学習する。主要な慢性疾患の健康上の諸問題を病態に基づいて理解し、科学的根拠に基づいた看護援助の必要性やセルフケアを支援する援助の必要性について学ぶ。さらに、慢性期にある患者の療養行動維持、生活の再構築や適応を促進していくための患者・家族教育方法、援助方法、社会資源の有効活用方法についても学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 有吉玲子/10回)</p> <p>慢性期看護の考え方、および、成人期にある慢性疾患をもって生きる患者と家族の特徴と理解、慢性期にある人への看護援助、慢性の機能障害(呼吸器機能障害、循環器機能障害、栄養摂取・代謝機能障害、内部環境調節障害)をもつ患者の看護を学ぶ。</p> <p>(19 中島優子/5回)</p> <p>慢性期にある人への看護援助、および、慢性の機能障害(生体防御機能障害、運動機能障害、排泄機能障害)をもつ患者の看護を学ぶ。</p>	オムニバス
		セルフケア支援論演習	セルフケア支援論の講義をもとに、演習形式で講義を展開していく。日常生活、セルフケアを支援していくために必要とされる看護技術の修得と患者の理解の促進を目指す。また、成人期にある慢性疾患をもって生きる患者の事例を通して、看護過程と看護診断について学習する。	
		緩和ケア論	<p>(概要)終末期にある患者を総合的・全人的に理解し、看護援助及び看護師の役割、姿勢、多職種によるチーム医療の連携について学ぶ。がん終末期において患者やその家族がどのような心理プロセスをいだくのか理解し、その人らしい生と死を支援していくための死をめぐる倫理的問題や看護援助のあり方について考える。その上で、がん・緩和ケア論の講義をもとに、生命を脅かしている病に直面している患者と家族の事例を取り上げながら看護過程を展開する。また、患者・家族の意思を尊重し苦痛緩和に向けて、がん・緩和ケアに必要なとされる疼痛コントロールや症状緩和、安楽の方法など、具体的な看護技術について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(19 中島優子/10回)</p> <p>緩和・終末期看護の考え方、および、チームアプローチの基本の理解、終末期にある人の身体的特徴と理解、終末期にある人の心理的・社会的・スピリチュアルの理解、痛みの症状マネジメントの基本の理解、痛み以外の症状マネジメントの基本の理解、について学習する。さらに、具体的な事例や看護技術の学びを通して理解を深める。</p> <p>(26 中森美季/5回)</p> <p>終末期にある人へのQOL、意思決定や心理的援助、および、コミュニケーション・家族ケアの基本について学習する。さらに、具体的な事例や看護技術の学びを通して理解を深める。</p>	オムニバス
		精神看護学	精神の健康を保つための精神保健看護の基本概念と基礎知識について学ぶ。精神医療・看護の国内外での変遷、法律と制度、現代の人と社会の病理を学ぶとともに、精神・身体・家族・集団の関係性とダイナミクスについて理解する。また地域・学校におけるメンタルヘルスやリエゾン看護、学生自身のメンタルヘルスのケアについても理解を深める。その上で精神看護・精神保健活動における基本的な知識と技術を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	精神看護学	<p>精神疾患を持つ人を全人的に理解しケアするための、基本的な概念・知識・技術を学修し、精神看護の実際を学ぶとともに、そこで生じる人権に関する問題・倫理的課題についても思考を深める。対人援助に関する看護理論、プロセスレコード、ロールプレイ、看護過程の事例などを用いて、その看護の実像理解にアプローチする。</p> <p>(共同方式／30回)</p> <p>(6 山本明弘／30回) (11 高橋康子／30回) (14 三林聖司／30回)</p>	共同
	臨地実習	<p>生活行動援助論実習Ⅰ</p> <p>生活行動援助論実習Ⅰの学修の進度に沿って、療養環境・患者の生活を日常生活援助について、療養の場である病院に出向きリアルティに触れる見学実習を行う。生活行動援助論実習Ⅰでは、臨地での日常生活援助を体験し、基本技術の原理原則を理解し深めていく。生活行動援助論実習Ⅰ(1週間、1単位)は、1年次の1月に実施する。この実習は、看護の現場を実際に学生が体験することが主目的であり、今後の看護を学ぶ動機づけとなるように入学期に設定している。</p>	
	生活行動援助論実習Ⅱ	<p>治療を受ける患者を全人的に捉え、科学的な知識と思考を用いて、看護の独自の機能である生活行動の援助とその意義について学ぶ。2年次の7月に、生活行動援助論実習Ⅱ(2週間、2単位)を行う。この実習では、医療機関における看護師の役割について学び、実際に患者を受け持ち、看護過程を展開する方法について教員・実習教育者の下に実践していく。</p>	
	在宅支援論実習	<p>地域で暮らす高齢者が希望する生活を自立(自律)して送れるよう、福祉・保健・医療の専門職チームで行われる総合的かつ継続的な支援体制を学ぶ。在宅で療養する全ての年齢層の人々と家族の意思決定を尊重し、多様性と個別性を重視した看護の機能と役割を学ぶ。</p>	
	高齢者支援論実習	<p>対象の発達課題、加齢による諸機能の変化、健康障害、生活障害、および心理社会面を統合して捉え、老年期にある対象の最適健康に向けた看護ができる能力を養う。日常生活への援助やコミュニケーションをとおして、高齢者のQOLの保障や生活の場を整える看護の視点をもつことができる。</p>	
	母性看護学実習	<p>妊娠、分娩、産褥各期にある家族の発達過程を共に体験し理解することにより、生命の尊厳性に触れ、自らの母性・父性意識の深化をはかる機会とする。両親および新生児やその家族に対しての基本的な看護援助の技術・態度・知識を学ぶ。具体的には出産期のライフサイクルにある女性と家族に寄り添って共に歩み、支援しつつそのケアの方向性についての理解を深める。また妊娠期では妊娠期の健康診査の見学を通して、妊娠過程とその看護について学び、妊娠期にあるクライアントへの理解を深める。分娩期では分娩の見学を通してその経過と産婦・胎児の看護上の問題とその援助について学び理解する。産褥期では母子の産褥期における看護問題を明確にし、直接的ケア・教育的ケア・治療的人間関係に基づくケアを行う。新生児期では新生児期に起こる種々の生理的現象を把握し健康レベルの理解と適切な援助技術を学ぶ。</p>	
	小児看護学実習	<p>臨床現場のダイナミクスを体験しながら、対象(患児及びその家族)の健康上の問題を総合的にとらえ、対象に適した看護活動の実践について学ぶ。具体的には、子どもとその家族と援助的関係をつちかい、子どもの成長発達、疾病や障がい、QOL、個性などを統合的に理解してアセスメントし、子どもと家族を尊重しつつその子どもに合った支援を創出し実践を試みる。平行して入院中の生活援助と看護に必要な基礎知識と基本技術を学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	臨 地 実 習	急性期・周術期 看護論実習	急性期・周術期看護論実習では、急性期における患者の特徴を理解し、生命維持、身体的苦痛を取り除き、健康回復への援助を行う。主に手術療法を受ける患者の手術前・手術中・手術後の特徴を理解し、患者および家族のニーズを考慮に入れた看護過程の展開の実際について学ぶと共に、手術療法を受ける患者の心理面を理解し、患者及び家族への共感的態度を養う。
		生活行動回復 看護論実習	疾病・障害・加齢などによる生活上の問題を有し、さまざまな機能障害を伴う患者に対し、可能な限り日常生活行動の自立と社会復帰やQOLの向上に向けての医療チームと家族の連携や社会資源の活用についての指導など看護実践能力を身につける。
		セルフケア 支援論実習	慢性疾患をもって生きる患者の健康上の諸問題を総合的に把握し、療養行動維持・QOL向上に向けての看護の実際を学ぶ。具体的には、慢性疾患をもって生きる患者の健康上の諸問題を総合的に把握し、療養行動維持・QOL向上に向けての看護の実際を学ぶ。患者との関わりを通して、成人期の慢性疾患患者や家族の状況をアセスメントし看護過程を実践する。成人期の慢性疾患患者の生活やセルフケア能力に焦点をおき、健康教育の必要性や援助方法について学ぶ。また患者・家族が健康障害に伴う生活上の制約を受容し、療養行動を維持していくための看護援助を経験し看護技術を修得する。
		緩和ケア論実習	がんと共に生きる人とのかかわりを通して、全人的な痛みについて理解し、全人的なケア・家族ケア・多職種によるチーム医療の重要性を、看護の視点から学ぶ。具体的には、がんと共に生きる人とのかかわりを通して、全人的な痛みについて理解し、全人的なケア・家族ケア・多職種によるチーム医療の重要性を看護の視点から学ぶ。告知後の自己決定を支えていく看護や、患者・家族の希望を尊重しながら苦痛緩和に向けて必要な看護援助を経験する。学生はがん患者を受け持ち、患者の現在の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな状況のアセスメントを行う。支持的態度の必要性や身体的苦痛緩和のために必要な援助の工夫や実践を通して、その人らしく生きるための生活援助技術や看護技術を体験する。

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	臨 地 実 習	精神看護学実習	心を病む人とのかかわりを通して、精神の健康および精神の障がいを理解し、対象の生活の場に応じた看護を実践するために必要な知識・技術・態度を養う。具体的には心を病む人とのかかわりを通してその全体像を理解し、適切な支援的関係を築くなかで回復への看護実践について学ぶ。さらにその家族や取り巻く社会の状況についての理解を試みることも、精神科領域に関する多様な組織や他職種との連携についても学び、包括的なケア体制づくりの重要性について理解する。	
		課題探求実習	4年次に総まとめとして前期5月に課題探究実習(1週間、1単位)を行う。病院組織と看護部の位置づけと各看護単位の有機的な連動、看護マネージメント、看護単位内外および他職種、地域連携の実際に触れ、マクロな観点から看護を学ぶ。加えて3年次の領域別看護と結合させて考察し、看護ニーズ・看護の課題を抽出して研究課題として設定し、卒業研究である課題探求へとつなげる。	
		総合実習	4年次前期の8月に総合実習(1週間、1単位)を行う。複数の患者の受け持ちや夜間実習など卒業後の看護師の‘仕事’のイメージを具体化し、インターンシップ的要素も含める。また、保健医療福祉チームでの連携における看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップ、フォローアップの役割についての一連の体験をもとに今後の保健医療福祉の連携の在り方についての課題を見出すことができる。	
		国際看護論実習	本学教育理念の重要概念である、全人的看護とケアリング実践について、その伝統と実績を持つドイツやスイスの病院施設を訪問し、その実践や背景に触れ理解を深める。同時に、異文化の中での看護における共通部分と、相違部分について体験を通して考察できる。また、欧州の人々との交流を通して異文化間でのコミュニケーション力を伸長し、国際人としての資質を養い、看護の分野で日本や国際社会で活躍できる能力の基礎を培う。	
研 究 科 目	課 題 探 求	課題探求 I	(概要)看護研究とは何か。看護研究の意義と目的、種類、EBNとは、文献検索方法、文献の批判的検討など、基本的な研究方法の構成要素と各構成要素のプロセス、倫理的配慮を学ぶ。また疫学・保健統計の基本的知識の確認、看護理論と看護研究と看護実践の関係やそれらの動向についても解説する。 (オムニバス方式/全15回) (1 豊田久美子/2回) 看護研究とは、看護研究の意義と目的、看護実践と研究 (2 田口豊恵/5回) 看護研究の方法、構成要素とプロセス、倫理的配慮 (6 山本明弘/8回) 研究計画の書き方	オムニバス
		課題探求 II	3年次の課題探求実習においては、領域別看護の学びと考察から結合させて、看護ニーズや看護上の課題を抽出し、自らの研究課題を見出し卒業研究へとつなげることを目的としている。この研究課題を受けて、ゼミ形式の授業を行い、文献展望・研究計画の立案・調査・考察の一連のプロセスを実際にたどり、研究結果を導き出すことを目的とする。	